



# サッカー部全国大会出場

## 全国第3位

The Other High School Championship 3rd Place Nationally



## その声援が僕らの力になる！

### 試合結果

〇1月24日(土)予選Dリーグ 於:藤枝市民グラウンド

	長崎希望が丘	兵庫西神戸	桃花台学園	得失点	総得点	順位
長崎希望が丘		×0-3	×0-3	-6	0	3
兵庫西神戸	〇3-0		△0-0	3	3	2
桃花台学園	〇3-0	△0-0		3	3	1

長崎県立希望が丘高等特別支援学校戦では前半に主将3年の武藤が先制点を決め、後半に2年の大森が2点のゴールを決めました。

兵庫県立西神戸高等特別支援学校と勝ち点、得失点、総得点が並んだため監督による抽選の結果、本校が決勝トーナメントへ進出しました。

〇1月25日(日)決勝トーナメント・順位決定戦

於:藤枝総合陸上競技場

	前半 0-0	学校法人日章学園 鹿児島城西高等学校	
	後半 0-0		
	(PK 3-4)		

両校得点が奪えず、スコアレスドロー(引き分け)に。その後のPK(ペナルティーキック)戦で本校が敗れ、3位決定戦へ。

	前半 2-1	愛知県立豊田 高等特別支援学校	
	後半 0-0		

前半に武藤、3年の奥山がそれぞれゴールを決め、前半のリードを守り切り勝利し、全国第3位の成績を収めました。

全国第3位おめでとう！ 校長 木村則夫

日頃から昼休みもボールを蹴ったり、部活動に真摯に取り組んだりしてきた部員や顧問の努力が結果に現れました。

大会では、部員の保護者やご家族、本校職員等、現地での100人近い応援団やインターネット中継での応援の生徒や職員の声に一体感を感じ、素直にうれしかったです。応援が選手の後押しになったと確信しています。

本校の部活動は未経験者が大多数なのが特徴です。サッカー部も同様。初心者の部員たちが夢中に練習しています。OBには、卒業後もクラブチーム等で競技を続けている人もいます。

これからも、在学中に「好きなもの」「夢中になれるもの」が見つかることができ、そんな生徒を応援する学校であり続けたいと考えます。





# 生徒会長が

「もうひとつの高校選手権大会」で全国第3位になったサッカー部。そのサッカー部主将の武藤選手に生徒会長の石合さんが全国大会出場や主将の思いなどについて聞きました。



**会長：**全国第3位おめでとうございます。全国第3位が決まった瞬間はどんな気持ちになりましたか。

**主将：**やっぱりうれしいです。しかし、（決勝トーナメント準決勝戦の）鹿児島城西戦で最後の得点まではいけず、結局PK戦で負けたのはすごい悔しい思いです。



# サッカー部主将に聞く

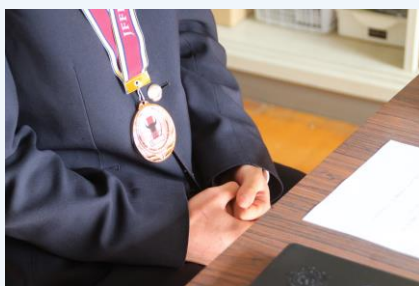
**会長：**私も合唱部でコンクールなどで舞台上で発表することがあるのですが、全国場で試合やプレーすることにプレッシャーはありましたか。

**主将：**少しプレッシャーはありましたが、3年生は全国が2度目ですし、そのときと同じ会場でやったので、芝の感覚などがあり、あまりプレッシャーはなかったですね。



**会長：**武藤さんは今大会で何回かシュートを決めたと思いますが、そのときはどんな気持ちになりましたか。

**主将：**最高！という気持ちになりました（笑）。1日目の希望が丘戦では久々のゴールですごくうれしかったです。次の日の豊田戦はリベンジマッチということで絶対に勝ってやるという強い気持ちが全員にあったので、僕もフリーキックで直接狙えたんだと思います。あのフリーキックで得点したのは本当まぐれだったのですが、決まってくれてよかったです。スタンドにはたくさんの人がいたし、（Teamsオンラインで）画面越しには生徒がたくさん見てくれ、その応援のおかげでシュートが決まったのだと思います。



武藤主将にインタビューする石合生徒会長＝1月26日 生徒会室

**会長：**全国大会に向けて主将として大切にできたことは何かありますか。

**主将：**今のチームはまとまっていて、守備も攻撃も同じレベルでした。うまい選手だけだと結局のところサッカーは勝てない競技なので・・・。うまい選手は自分のプレーを見せて、周りの選手が自分についてきてもらえるようにするなどチーム全体のレベルを同じにすることを大切にしてきました。



**会長：**私も部活動ではチームワークがないとうまく活動ができないと経験から思います。サッカー部のチームワークづくりはどのようにやってきましたか。

**主将：**練習や試合だけでなく、学校生活においても「話す」ことを心がけてきました。そのことがあったからこそ、深く相手のことを理解できたり、それがチームづくりにつながったのだと思います。



**会長：**最後にサッカー部の後輩たちにメッセージはありますか。

**主将：**どんなときでもあきらめないこと。最後のホイッスルが鳴るまで走り切るところを引き継いでいってほしいです。

**会長：**今日はありがとうございました。





# 「もうひとつの高校選手権大会」とは

「もうひとつの高校選手権大会」  
ホームページ



この大会は「全国知的障害特別支援学校高等部サッカー選手権大会」の通称で2015年からサッカー都市の静岡県藤枝市で毎年開催されています。今大会は8地区52チームが各地区の予選を勝ち抜き、全国大会に集結。強豪12チームが全国優勝を目指しました。

本校は今大会で3回目の全国大会に出場。1回目の2021年は全国大会の切符を手にしたもののコロナ感染症拡大のため中止になりました。2回目の2023年は決勝トーナメントに進出できず、全国第9位に終わりました。



北海道  
札幌あいの里高等支援学校  
2024、2025出場



岐阜県立  
可茂特別支援学校  
2022、2023、  
2024、2025出場



東京都立志村学園  
2017、2018、2019、2021、  
2022、2024、2025出場



東京都立南大沢学園  
2022、2023、2024、2025出場



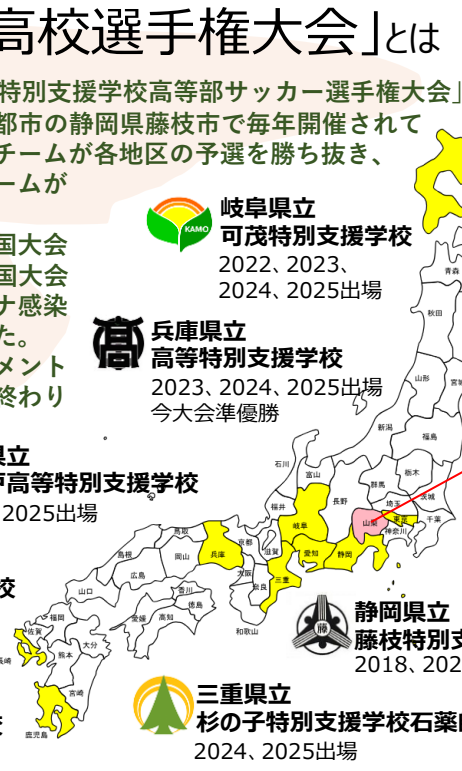
兵庫県立  
高等特別支援学校  
2023、2024、2025出場  
今大会準優勝



山梨県立  
高等支援学校  
2021、2023、2025出場  
今大会第3位



長崎県立  
希望が丘高等特別支援学校  
2018、2023、2025出場



学校法人日章学園  
鹿児島城西高等学校  
2025出場  
今大会優勝



三重県立  
杉の子特別支援学校石薬師分校  
2024、2025出場



静岡県立  
藤枝特別支援学校焼津分校  
2018、2022、2025出場



愛知県立  
豊田高等特別支援学校  
2017、2018、2019、2021、  
2022、2023、2024、2025出場  
今大会第4位

Q:全国第3位が決まったとき、  
どんな気持ちや思いになりましたか？

奥山選手: 桃花台の歴史をつくることができ  
てうれしかった。

鎌田選手: いい成績を残せて、  
仲間とよい思い出をたくさん  
つくることのできた。

武藤選手: 次こそNo.1をとってほしい。

## 3年生選手に インタビュー



Q: サッカー部を通して自分が成長でき  
たことや変わったことは何ですか？

三井選手: クロスやシュートの精度が上がった。

高橋選手: 中学校より部活動に多く参加  
することができた。

加藤選手: 気持ちが強くなった。



Q: 3年生はまもなく引退に...後輩に  
熱いメッセージはありますか？

三浦選手: ディフェンスは頼んだ。  
みんなで協力して大会で勝とう！

## サッカー部小田切監督に 生徒会長が聞く



会長: 全国で勝負するためには「勝つチームづくり」が必要だと思  
いますが、監督としてどのようなことを大切にしてきましたか。

監督: 勝つだけのチームを目指していたことはなく、選手に伝  
えていたのは全力でサッカーを楽しむことでした。楽しんだ先に勝  
利が出てくると思っています。

会長: チームワークはどうつくってきましたか。

監督: 自分のためだけでなく、チームのためにいかにプレーでき  
るかというのは選手に言うてきました。試合に出られる人数は決  
まっています、サッカーなら11人ですが、その11人ががんばれば  
よいのではなく、試合に出られない人も試合に出ている人のた  
めに何が出来るか、試合に出ている人は出られなかった人の分  
まで戦わなければならないことを常に大切に伝えてきました。

会長: 引退する3年生の選手にメッセージはありますか。

監督: この1年間、全国大会出場に向けてがんばっていた姿を見  
てきているので、ぜひ3年間の経験を今後の社会での生活に生か  
してほしいですね。

豊田戦の戦況を見守るコー子陣と小田切監督(右端)ら=1月25日



## ■公開授業 第1学年家庭科

■単元名「賢い消費者になろう～調理活動を通して～」

■本時の学習活動

調理に必要な材料をいくつかの条件に合わせ、賢く選ぶ方法を考えました。調理日や必要な分量など、買い物をするときは計画が大切であることに気づき、互いの意見を共有し、「賢い消費者」として上手なお金の使い方について話し合う場面がみられました。



# 金融経済教育公開授業&シンポジウム

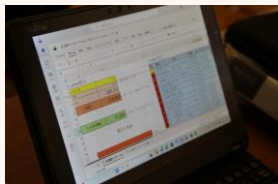
令和6年4月に山梨県広報委員会から金融経済教育研究校の指定を受け、「軽度知的障害がある生徒に向けた金融経済教育～卒業後の自立のために～」と題して2年間の研究に取り組んできました。令和7年12月19日（金）に公開授業とシンポジウムを開催し、県内外から約50人が参加しました。その概要を報告します。

## ■公開授業 第2学年職業科

■単元名「仕事とお金について」

■本時の学習活動

生活費の項目（家賃、食費、光熱費など）を理解し、表計算ソフトを使って生活費の主要な支出について知りました。自分の理想とする生活設計をもとに、収支のバランスを考え、自分の将来の生活について他者の意見も参考にしながら意欲的に学習に取り組んでいました。



## ■公開授業 第3学年社会科

■単元名「税の仕組みと使い道～よりよい社会参加を目指し～」

■本時の学習活動

社会の一員として、よりよい税の使い道を考えるために、自作のすごろくを作り、自分の意見と他の生徒の意見を比較させてまとめました。互いの発表を聞き、自分や社会のために有効な税の使い道について考えた多くの発言がみられました。



## ■シンポジウム

「軽度知的障害のある生徒が卒業後自立した社会人として生きていくためにはどういった教育・支援が必要なのか」のテーマのもと、金沢星稜大学の新谷教授、株式会社アイシンの村瀬様、山梨市社会福祉協議会社会福祉士の依田様の各シンポジストの提言から教育や支援の在り方について参加者で考え深めました。

